

椅子研究会 第1回 講演会

開催日 2009年7月4日(土)14時～17時

会場 長野県工業技術総合センター環境・情報技術部門大会議室
「高齢者のためのイスづくり」

講師 古松 弘喜(こまつ ひろき)(諏訪市在住 古松家具工房主宰)

参加者数 38名

(報告者 谷口 泉)

古松弘喜さん

古松さんの作っている椅子は介助を目的とした椅子で、一般的な椅子の形からはだいぶかけ離れていて、快適な生活をおくるためより生きるために椅子を使う。

その椅子も腰掛けるのではなく体をくくりつけるためのものだったり、矯正するものだったりしていました。

古松さんの椅子作りの原点は寝たきりで、自分では座わり続けることのできない人にも座ったときの風景を見てもらいたいという思いのようでした。

家具作りの観点から美しい介護、介助の家具を考えてほしいと言っておられたことは今後の介護介助用品の課題かも知れません。

参加者の森下弘幸さん(兵庫県芦屋市在住 テクノエイドスペース代表取締役)

森下さんの扱っている椅子は介護を目的としたものようでした。

介護される人は長時間椅子に腰掛けているとお尻に床ずれができやすくなるため、椅子の座り心地は重要な問題で素材によっても床ずれができるようでした。

森下さんはただ椅子に座れたことではだめだと言っておられました。

椅子に座って何かをすることが大切なのだそうです。

お年寄りが座りたくなるような椅子を作ってくださいとのことでした。

参加者の小野田佳代さん(岐阜県立森林アカデミーの学生)

小野田さんの作品は玄関用スツールでした。

上がり框の段差が少ないバリアフリーの玄関は靴の脱ぎ履きが大変なので専用のスツールでした。4本の足のうち2本が上がり框の段差分、短くなっていて片側2本を上がり框に架けることで座面が水平になるようになっていました。

たたき側にだけ肘掛があり立ち上がる時などの介助に役立っており、座面も横長でたたきに靴を脱いでお尻を滑らせるようにして床面に立つことができるように工夫されていました。

老人の椅子は介護の椅子と健常者の椅子の間であって日ごろ使っている椅子とどこが違うのか、意識して作っていないが、個々の注文の中で介護介助的な品物を作っていることは間違いない。

椅子文化の時間の短い日本であって、老人の椅子を中心に据えた椅子作りも面白そうである。

第1回講演会



講習会の風景



古松氏の事例説明



古松氏の講演風景